

「藺牟田小学校の中原金山踊り伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立藺牟田小学校

2 学年・人数

小学5，6年生（計10人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

月	日	時間	場所
9月3日（月），9月5日（水）		19:00～20:00	藺牟田小学校体育館
9月10日（月），9月12日（水）			
9月19日（水）			
9月21日（金）（衣裳合わせ）		19:00～20:00	藺牟田小学校体育館
9月26日（水）		19:00～20:00	藺牟田小学校校庭
9月27日（木）ひならし（リハール）		15:30～16:00	藺牟田小学校校庭

(2) 発表の日時・場所

月	日	時間	場所
10月2日（火）		10:50～11:10	藺牟田小学校 秋季大運動会

4 活用に取り組んでいる郷土芸能の名称・時代・特徴について

(1) 名称

中原金山踊り（なかばるかなやまおどり）

(2) 由来

旧祁答院町では藺牟田だけに伝わっている踊りであって、中原地区の青壮年によって踊られている。金山踊りは鉾山の神を祭ることから始められたもののようである。時代はつまびらかではないが、薩摩田の櫛毛の谷川の上流に剛玉鉾の精錬所があったらしい。今も西村氏の隣の山の神々社には、その原鉾が奉納されている。往時、この重要な産業を祝賀し、山の神への謝意からこの踊りが始められたものと思われる。

(3) 構成等

20～30人が4人1組になり、右手に錫杖，左手に長刀を持ち，前半は二列縦隊になって歌に合わせて踊る。後半は円形の隊形になって踊る。前後各10分，計20分ぐらいを要する踊りである。

5 保存会や地域との連携の具体

藺牟田地区では長年，各集落が競い合いながらそれぞれの踊りを守ってきたが，高齢化で10年以上奉納が中断されていた。危機感をもった当時の黒江保正中原自治会長を中心として復活に奔走し，平成23年に日枝神社に奉納された。「先人の伝統を途絶えさせてはならない」と，地域住民らが「中原金山踊り保存会」を設立し，伝承していた。

本校の5，6年生が，「ふるさと・コミュニケーション科」の学習の中で，金山踊

りについて調べ、実際に踊ったことがきっかけとなり、平成24年度から「中原金山踊り保存会」の協力を得て、本校の秋季大運動会で披露することになった。

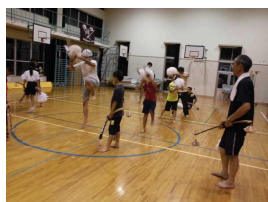
そこで、平成24年度から保存会の支援の下、学校は「藺牟田郷土芸能保存会」を発足させ、伝承することになった。

6 活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携・協力を図りながら金山踊りを継承していくために、学校に「藺牟田郷土芸能保存会」事務局を置き、「中原金山踊り保存会」と連携を図りながら、「地域の郷土芸能は地域で守り育てていく」という自覚を子供たちにもたせながら、金山踊りを伝承する体制を整えた。

金山踊りは、本校の秋季大運動会で披露し、この伝承活動の様子等を学校便り等で保護者や地域の方々に積極的に広報している。本年度は、本地区の焼酎製造所から蔵開きでの披露を依頼された。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【9月3日、5日、10日、12日の練習…1番から8番の踊りを覚える。5年生には個別に指導をする。】



【9月19日…円形での練習】

【9月21日…衣装合わせ】

【9月27日…ひならし】

【10月2日…運動会で発表】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

(1) 6年生児童

今年も金山踊りを踊りました。列になって踊る時は大きな声を出すことができましたが、円になって踊る時は少し間違えそうになって少し慌ててしまいました。今年が2回目だったので去年より落ち着いて踊ることができました。

(2) 6年生保護者

今年が2回目でしたが、子供の踊りを落ち着いて見ることはできませんでした。手や足の動きが難しく、私も練習を試みましたが、なかなか覚えられませんでした。子供たちは踊りを覚え、堂々と踊っているので感心しました。とてもよい経験ができました。ご指導くださった保存会の皆様、お世話になりました。ありがとうございました。

(3) 保存会

少ない練習回数の中で、子供たちはよく踊りを覚えてくれました。毎年のことですが、子供たちは覚えるのが早く驚いています。年々、話を聴く態度が素晴らしくなり、感動しています。これも担任の先生のおかげだと感謝しています。

本年度の5、6年生は10人でしたので、中原自治会の保護者6人にも踊ってもらいました。今後も伝承できるように、私もできる限り指導を続けていきたいと考えています。